

多文化共生について

私は今年度、野村中学校に赴任して、日本語指導という職務を任せられました。昨年までは、十数年間保健体育を指導していたので、この日本語指導をお願いしましたと言われたときは、正直ビックリしました。こんな未熟な私ですが、この半年間で感じたことや伝えたいことについて書きたいと思いますので、皆さんも一緒に考えてくれたら嬉しいと思います。

私は野村中学校だけで指導しているわけではなく、岸和田市内の他の中学校でも日本語指導をしています。岸和田には、11校中学校があり、私が指導に行っているのは、野村中学校を含めて5校です。また、私が行っていない中学校でも、他の先生が指導に行っています。岸和田市内の中学校には、外国から来た生徒が沢山いるのを知ってください。(私は、こんなにも外国から来た生徒がいるのだとビックリしました。)

皆さんは、多文化共生という言葉を知っているでしょうか？恥ずかしい話ですが、私はこの言葉を知りませんでした。

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

国が違くと文化が全然違い、日本では、当たり前前のが、外国では当たり前前ではありません。例えば、みんなが気にせず食べている給食ですが、私が指導している生徒の一人は、文化の違いで、食べていい食品と食べてはいけない食品があるため、出された給食を食べることはできません。勉強が嫌いで苦手な生徒がいます(個人的な性格もあると思いますが・・)。しかし、通訳の先生の話によると、その国では、2学期制で学期と学期の間には、約3ヶ月の休みがあるとのこと。また、学校の勉強も、自分の好きな教科だけ勉強している。なので、日本みたいに休みが少なく、全ての教科を勉強していることに、なかなか慣れないとのことでした。

礼儀正しくて、約束の時間を守ることができている生徒がいます。話を聞くと、母国では少しでも時間を守らないと、かなり厳しく指導されると言っていました。また、違う国の生徒に話を聞くと、「約束していた時間より2~3時間遅れることは普通だ」という生徒もいました。「待たされて腹が立たないのか」と聞くと、「国全体が時間にルーズで、腹を立てても仕方ない」と言っていました。

その他にも色々な文化の違いがあります。しかし、私が教えている生徒全員は、日本の文化に慣れようと一生懸命頑張っています。が、母国と日本の文化の違いに戸惑っている生徒もいます。もし、外国人と接する機会があれば、「多文化共生」という言葉を思い出し、思いやりのある行動をしてけると嬉しいです。